

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 有限会社オブジェチーボ

1 事業の趣旨・目的

磐田市周辺のブラジル人を対象として、地元企業に就職の際に求められる日常会話レベルの習得を目標とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
6月6日	藤井紀子、山崎紘 影山裕、鈴木かおる 菊田千秋、知念ヨシオ	日本語教室開催に向けて①	・講師の選出 ・使用教科書 ・受講生の募集方法
6月20日	藤井紀子、山崎紘 影山裕、鈴木かおる 菊田千秋、知念ヨシオ	日本語教室開催に向けて②	・開催日等カリキュラム の作成 ・使用教材の決定
7月4日	藤井紀子、山崎紘 影山裕、鈴木かおる 菊田千秋、知念ヨシオ	日本語教室開催にむけて③	・最終打ち合わせ ・受講者の申込み状況
8月1日	藤井紀子、山崎紘 影山裕、鈴木かおる 菊田千秋、知念カヨコ	定例会①	・講座の進捗状況 ・受講生の様子を聞く ・講座の内容、運営方法 の見直し
9月5日	藤井紀子、山崎紘 影山裕、鈴木かおる 菊田千秋、知念カヨコ	定例会②	・講座の進捗状況 ・受講生の様子を聞く
10月3日	藤井紀子、山崎紘 影山裕、鈴木かおる 菊田千秋、知念カヨコ	定例会③	・講座の進捗状況 ・受講生の様子を聞く

【写真】



運営委員会の会議風景 1



運営委員会の会議風景 2

3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称

『ブラジル人のための日本語教室』

② 開催場所

(有)チアホーザ内の教室

③ 学習目標

磐田市周辺のブラジル人を対象。地元企業に就職の際に求められる日常会話レベルの習得を目標とする。

④ 使用した教材・リソース

- ・みんなの日本語(初級Ⅰ)
- ・ひらがな、数字カードセット
- ・公文学習ポスター
- ・くるくるとけい

⑤ 受講者の募集方法

ブラジル人家庭のネットワークを利用したチラシ配布



募集チラシ

⑥ 受講者の総数 13人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 60時間 (全 30回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月7日 13:30~15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者2人	開校式・ガイダンス
②	7月10日 13:30~15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 自己紹介
③	7月14日 13:30~15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 こそあど言葉
④	7月21日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 時間・曜日の表現1
⑤	7月24日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 自分の一日を紹介
⑥	7月28日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 時間・曜日の表現2
⑦	8月4日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 疑問文の表現
⑧	8月7日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 あげる・もらうの表現
⑨	8月18日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 形容詞
⑩	8月21日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 量や状態を表す表現
⑪	8月25日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 位置・距離を表現
⑫	9月1日 13:30~15:45	2時間	8人	ブラジル・ポルトガル語(8人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 単位のいろいろ
⑬	9月4日 13:30~15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 レストラン遊び
⑭	9月8日 13:30~15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 比較級・最上級
⑮	9月15日 13:30~15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 希望の表現
⑯	9月18日	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ	教授者2人	みんなの日本語初級

	13:30～15:45			ル語（10人）	補助者2人	て形表現1
⑰	9月29日 13:30～15:45	2時間	7人	ブラジル・ポルトガ ル語（7人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 て形表現2
⑱	10月2日 13:30～15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガ ル語（9人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 継続的表現
⑲	10月6日 13:30～15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ ル語（10人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 否定的表現
⑳	10月13日 13:30～15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ ル語（10人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 「こと」の使い方
㉑	10月16日 13:30～15:45	2時間	8人	ブラジル・ポルトガ ル語（8人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 経験の表現
㉒	10月20日 13:30～15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ ル語（10人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 丁寧形・普通形
㉓	10月27日 13:30～15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ ル語（10人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 意思表現
㉔	10月30日 13:30～15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ ル語（10人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 主語を入れ替える
㉕	11月10日 13:30～15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガ ル語（9人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 文の組合せ
㉖	11月13日 13:30～15:45	2時間	7人	ブラジル・ポルトガ ル語（7人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 修飾表現
㉗	11月17日 13:30～15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガ ル語（9人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 て形表現3
㉘	11月24日 13:30～15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガ ル語（9人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 願望的表現
㉙	11月27日 13:30～15:45	2時間	9人	ブラジル・ポルトガ ル語（9人）	教授者2人 補助者2人	みんなの日本語初級 助詞・接続詞
㉚	11月30日 13:30～15:45	2時間	10人	ブラジル・ポルトガ ル語（10人）	教授者2人 補助者2人	終了式

⑨ 特徴的な授業風景（2～3回分）

【第2回 7月10日（金）】

テーマ:「日本語で自己紹介をしてみよう」

初めに日本式自己紹介の基本（どの様な事を、どの様な順番で、話すのか）を学んだ後、講師と通訳が日本語で自己紹介をして見本を示した。次に生徒たちが自分で考えた自己紹介

を、ポルトガル語で発表させた。ブラジル人講師、通訳がいることで、生徒は安心して自分の伝えたいことを話していた。

今度はそのポルトガル語で書かれた自己紹介文を、講師と通訳が生徒のレベルにあわせて日本語に訳し、ローマ字で読みがなをふり生徒に渡した。そして、その日本語の文章を見ながら再度自己紹介をさせた。当然、生徒たちはこれから日本語を学ぶため全てを理解して話す訳ではなかったが、日本式自己紹介を体験させることができた。生徒たちは他の生徒の自己紹介に熱心に耳を傾け、自分と違う所や面白いと思った所を自主的にノートに書きとめていた。発表が終わると、「もう少し授業が進んだ後にもう一度やってみたい」という声を聞くことができ「もっとうまく話せるようになりたい」という気持ちが湧いたようで、本教室の導入編としては目標達成できた。

【第8回 8月7日(金)】

テーマ:授受表現「あげる・くれる・もらう」を理解する／家系図をつくる

外国人は「佐藤さんは私にCDをあげた」「私は妹にお菓子をくれた」など誤った表現をしている。「やりもらい」授受表現は、ものや事柄の移動と人の関係がポイントになる。主語が自分で第三者との間、または主語が第三者でまた別の人との間でのものの移動により、表現方法は変わる。授業では図を使って自分と妹、または先生と生徒、医者と患者などいろいろな関係図を書き、その間を本やCD、ケーキ、おもちゃなどのカードを移動させながら説明した。生徒たちにも自分が考えた文章を図とカードを使って発表させ、またみんなで意見交換しながら、実際に起こり得るいろいろな場面を想定させてみた。家族での場面想定が一番わかりやすく、文章も作りやすいようだった。

後半の授業では日本の家族とその歴史や、生徒たちの祖父母が日本で暮らしていたころの話をした。生徒にはブラジルの家族との違いについて話してもらった。その後、「家系図」についての話をした。ブラジル人は家族の絆を大事にする人種なので興味を持つだろうと思っていた。予想通り「家系図」の話はすぐに盛り上がり、早速「我が家の家系図作り」に取り掛かった。まずは自身の家族から始まり、兄弟、姉妹、その家族、祖父母、叔父、叔母など、そしてその言い方、例えば「おじ」「おば」「いとこ」「はとこ」などの言葉にも大変興味を持ち、何度も繰り返し発音練習しその関係についても理解を深めた。

「家系図」は自宅に持ち帰り家族と一緒に完成させたようだった。その際、ブラジルにいる家族や日本の家族、周囲の人々のいろいろな話が飛び出し、楽しい時間を過ごせたと聞いた。日本語教室を通して、家族や地域の人との関わりを考えるきっかけが出来たことに意義を感じられる授業だった。

【第13回 9月4日(金)】

テーマ:ものの数え方。いろいろな単位表現を理解する。／レストラン遊び

外国人にとって日本のものの数え方ほど困難なものはないようだ。一度覚えてしまえばそん

なに難しくはないが、なかなか理解に苦しむ。実際に生徒たちにいろいろな物を数えてもらったが、思ったとおり自分の知っている言い方しか使わず、むしろ「〇個」の数え方しか知らないくらいだった。物によって数字の後ろにつくいわゆる「助数詞」が変わり、しかもその数によっては「ゝ」や「°」がついたり「促音」になったりするため、混乱をするようであった。

生徒たちに理解を深めてもらうため、ロールプレイングを取り入れレストランを想定し実際にその数の尋ね方や答え方を使って会話のやり取りをする学習をした。

机のレイアウトを変え、クロスをかけた。ウェイトレス役にはエプロンを用意し、テーブルにメニューを置いて、お店での注文の仕方、答え方など学習した。まず、みんなで会話を考えた。日本のレストランに行った時ウェイトレスはどんな言葉を使うのか、お客様はどんな答え方をするのか、何を注文するのか、食事の途中で何か頼む時はどうするのか、食事が終わってお金を払う時、店員は、お客さんはどうするのか。一通りの会話の流れを考えたら、店員、お客様、それぞれの会話をどちらもできるように練習した。ウェイトレス1名、お客様2名のグループを作り、順番で役を交代した注文の個数を変更して、授業の前半で習った数え方を使って会話の練習をした。何度も間違えて言い直したりしたが、反対にアドリブの会話を取り入れた生徒もいて一人一人が日本語の会話を楽しんでくれているのが大変よくわかった授業だった。

【第30回 11月30日(月)】

テーマ: 終了式

日本語教室の最終日ということで、日本式の卒業式を行った。修了証書を一人一人に渡すときは、お互い感極まるものがあった。生徒たちが自分の力で日本語の文章を考え、最後の言葉を発表してくれた。私たち講師と教室を開設する機会を与えてくれた機関への感謝の気持ちがいっぱい詰まったものだった。さらに、これからも日本語の勉強を続けて行きたいという思いと、教室を続けて欲しいという願いが込められていた。そして、確実に成果を上げた生徒たちの日本語能力に驚くばかりだった。初めの自己紹介からは想像もできない成長ぶりで、式に参加してくれた日本人の来賓や家族も大変感動し喜んでもらえる式になった。



授業風景 1(開校式/パーティ)



授業風景 2(ガイダンス)



授業風景 3



授業風景 4

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
知念カヨコ	ポルトガル語 (ブラジル)	22年	30回	通訳
知念ヨシオ	ポルトガル語 (ブラジル)	22年	3回	アドバイザー
川崎好典	ポルトガル語 (ブラジル)	18年	30回	日本語講師
根路銘和江	ポルトガル語 (ブラジル)	22年	30回	補助

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
鈴木美佳	無	日本語教師養成講座 2級資格取得	2回	アドバイザー 使用教科書
菅原あきこ	無	日本語教員能力検定 合格(指導歴15年)	3回	アドバイザー 指導方法

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

今回は、日常会話レベルの能力習得を目標として「みんなの日本語(初級Ⅰ)」のテキストを使用し、計画通り終了した。

講座企画時点では学習者のほとんどが日本語会話能力に関してはゼロに近いと思っていたため、講座前半の授業内容ははまず「日本語に慣れ親しむこと」と思ってスタートしたが、すぐその目標は「生活日本語会話を学ぶ」に進んでいった。これは、学習者が授業に対して大変意欲的で、家庭での自主学習にも励み、回を重ねる度に日本語能力がレベルアップしたためである。ひらがな、カタカナも習得でき、文章作成もできるようになった。当初の目標以上の学習ができたと思う。

② 学習者の習得状況

初めは日本語のテキストを読むのもままならず、講師の読み上げを聞いてローマ字でふりがなをふっていたが、7回目の授業の頃からひらがなを使ってふりがなをふったり、講師の説明をひらがなで書きとめたりできるようになった。

会話での発音も大変よくなり、イントネーションやスピードに注意しながら会話ができるようになった。また、日本人講師に日本語で話かけたり、質問ができるようになった。今まで迷っていた表現方法も自信を持って使えるようになった。リスニングでも難しい言葉の言い回しも聞き取りができるようになった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

私たちが思っている以上にブラジル人が、日本語を学びたい、日本のことを知りたいと思っていることがわかった。日本語会話だけでなく日常生活の中で日本語をどう使ったらよいのか学びたいという要望があった。

授業では日本の社会や歴史、風習についても学び、日本の生活が安心して且つ楽しむ事が出来るように心がけたカリキュラムを取り入れた。

学習者の口コミ効果で今回参加できなかったブラジル人にも教室の存在が広まり、次回開催の際には参加したいという声も学習者を通じて知ることができた。

学習者の家族が見学に訪れたり、修了式に参列してくれたり、学習者の家族と打ち解けることができた。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回は磐田市の共生社会推進課から情報提供がきっかけでこの事業を受託することができた。

地域の関係者と連携することの必要性を感じ、今後も同課を中心に連携していきたい。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

●制度への理解

昨今の経済不況でブラジル人の失業が急増し、生活に不安を抱えた状況で日本語を学ぶのは大変困難なようである。その中で、無料で日本語を学べる機会を提供する事はブラジル人にとっては非常に有益と思ったが、無料であることについての猜疑心が強かった事が意外だった。(参加後に費用がかかるのではないかなど)

●コース設定

募集にあたって、今回は失業中のブラジル人を対象に講座を平日に設定し、ある程度の参加者を集めることができたが、休日の開催を望む声も多かった。

●講座の内容

日本語会話はもちろんであるが、日常生活での日本語の使い方や、漢字の読み書きなどへの関心も非常に高かった。

b. 今後の課題

●制度への理解

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業への理解を深めてもらうために、ブラジル人の心の壁を取り除き、安心して参加してもらえること。

●コース設定

平日・土日コースの両立や、参加しやすい時間帯での開催。

●講座の内容

個別のニーズやレベルに応えられる講座の開発。

c. 今後の活動予定, 展望

学習者へのヒヤリングによれば全員が今後も継続して学習したいという感想だった。今後は今回の学習者へのフォローアップ講座も検討したい。具体的には、漢字の読み書き、日常生活の中での日本語の使い方(役所の書類の書き方、病院の受診の仕方)のケーススタディを単発の講座で行ったり、多様な個別のニーズに応えられる個別指導も検討中である。

また、今回終了した学習者が周囲のブラジル人に講座の存在や成果を伝えてくれることで、募集の手助け等、協力してくれる事を期待している。同窓会などの開催も視野に入りたい。

⑥その他参考資料

無

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えないものを添付すること。